

# 令和 6 年度 事業報告

## 施設名 清瀬喜望園

### 1 総 括

清瀬喜望園は、2022年4月より、まりも会の運営となり3年が経過しました。

ご利用者に関しては、医療ケア及び重度の身体障害者の方を中心に受け入れを行っており概ね定員60名となっております。ですが、ご利用者第一義が基本となっていながら、9月に虐待認定を受けたことは管理者として猛省すると同時に、その根本に「接遇」の基本が浸透していなかったことを悔いております。この出来事を含め各種会議で「より良い支援とは？」という組織的な視点を管理職、中間管理職を中心に現場職員と取り組んでいく次第です。

新施設への移行に関しては、まりも会にとっても清瀬喜望園にとっても大きな転換期となりえるプロジェクトであることを前提に早期からプロジェクトメンバーを中心に一丸となりご利用者への説明会、全職員への周知及び準備をまいりました。

清瀬喜望園は、令和7年4月より新施設での運営となります。まりも会が地域にとって当たり前前の存在となれる様に、「地域と交わる」というコンセプトに沿った運営となるように障害者支援施設として「医療ケア及び重度の身体障害者」を受け入れ続けること、また施設の持つ機能「地域交流スペース」を手段として活用し、「施設とご利用者が地域にとって当たり前前の存在になる」という方針を常に発信し続けていきたいと思っております。

### 2 重点目標の取り組みと来期の課題

#### 1) 地域共生

##### 【目標】

- ・新施設移行を念頭に置いた『地域と交わる』取り組みを強化します。

##### 【取り組み状況と結果】

- ・地域福祉委員会や合同地域福祉委員会内で検討を行い、清瀬市ふれあい祭りや三小円卓会議への参画、また10の筋トレやヨガ教室等への活動場所の提供。更に、移動パン販売やJA野菜販売の招致など、まずは清瀬喜望園という施設を地域へ知っていただくことに注力してまいりました。福祉施設として、感染症対策に気を張っているあまり、外部の方が施設を出入りすることに奥手になりがちな所、地域の方々の自然な人の行き来が生まれたと実感しています。
- ・新規事業（重心通所、短期入所）を開始するにあたり、清瀬市をはじめ、近隣市へのPR活動を実施し、ニーズの把握に努めました。清瀬市からは清瀬市民の優先的な短期入所利用について要望をいただきました。こちらについては清瀬市と継続的に協議が必要です。
- ・近隣施設との合同研修の開催やエコキャップ運動を介した小学校との繋がり、施設行事へ保育園園児を招待、三小円卓会議への参画を行い、清瀬喜望園ご利用者と地域との関りの場を維持してきたことで、相互に連絡のやり取りが行われ、清瀬喜望園の活動が地域に認識されつつあると思われます。
- ・“街歩きマップ隊”による地域資源の掘り起こしについては未だペンディングの状態ですが、

“ものえらび検討会”での検討が10月末をもって終了し、以降は新施設地域交流スペースをどの様に運用していくべきかをテーマとした検討の場に移行しました。各地域交流スペースに担当者を置き、より具体的な検討を行っています。

- ・これまで利用者支援や業務に関する現場議論や引っ越し、コロナクラスター発生等、新施設へ移行するための準備に注視していたことから、『地域と交わる』取り組みについて施設職員が一丸となるには困難な状況が散見されたため、利用者支援を優先とした取り組みとなりました。

#### 【今後の課題】

- ・これまで構築してきた地域と清瀬喜望園との関りを維持しつつ、仮施設では想像が及ばなかったことも新施設移行後はより具体的な検討を行うことが出来るようになります。福祉施設という枠を取り除いた開放感ある施設を目指すと同時に、地域開放スペースの運用方法やご利用者の生活面に必要な配慮についても検討できるよう、ご利用者及び地域のニーズの把握とリスクマネジメントを踏まえた課題検討を行います。
- ・引っ越し終了後の環境整備や新規事業開始に伴う課題検討と並行して、『地域と交わる』取り組みについて令和7年度の重点事項として全職員が再認識できるよう取り組みます。

## 2) 建て替えプロジェクト

#### 【目標】

- ・令和7年4月、新施設へスムーズに移行します。

#### 【取り組み状況と結果】

- ・新施設移行スケジュールを基に、新施設プロジェクトにて諸課題等の検討を計画的に実施してまいりました。検討課題に対し担当者を割り振り、適宜進捗確認や検討を進めるにあたり新たな課題に対する検討等、事前の打ち合わせや会議にかかる時間や情報は膨大なものとなり、情報共有が困難な状況でした。各課責任者が中心となり、課題検討を行うことは新施設移行後も必要であり、責任者間の連携の在り方やPDCAサイクルに則った課題解決の基本を身につける機会にもなりました。
- ・毎月2回開催の“ものえらび検討会”にて物品選定や物の配置等の検討を行ってきましたが、多くの職員の意見を聞きたいという考え方から、担当者以外は会議の参加者をできるだけ固定しないように開催してきました。要不要品の行き先の検討まで詰めた検討が行えていなかった事等、“ものえらび検討会”と各課との連携が不足していることがありました。
- ・令和6年度は22箇所の福祉施設や特別支援学校等への見学を行いました。地域とのつながりや新規事業に関する情報、利用者ニーズやそれぞれの施設で行われている様々な取り組み等、多くのことを学び、種々の検討の場で報告し合い課題検討の参考とさせていただきました。これらの情報は、今後の課題検討に対しても私たちの知識の引き出しとして大いに活かすことのできる財産となりました。

### 3) 経営基盤の確立

<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員60名の利用者を維持できるように、関係機関との連携を強化します。</li> </ul>
<p>【取り組み状況と結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空床利用型短期入所について、年度当初退所されたご利用者の空床を利用し短期入所の受け入れを行いました。令和6年度は空床利用型短期入所を開始する旨を近隣市に対し事前に広報していた為、ご利用につながることが出来ました。</li> <li>・施設入所利用者の欠員が生じた日から新規入所利用者受け入れまでの期間を 90 日以内としていました。令和6年度は3名の欠員があり、内1名については受け入れまでに140日かかりました。主な理由として、施設入所後に当該ご利用者の医療的ケアに対応できる医療機関への取次がスムーズに行かなかったためです。</li> <li>・R7年度から新規事業（通所生活介護、短期入所）を開始するにあたり、清瀬市をはじめとした近隣市や相談支援事業所への営業活動を積極的に実施しました。利用希望の方との面談を踏まえ利用希望者の登録をしていただき、令和7年4月より通所生活介護11名（うち重心4名）、短期入所利用者2名の受け入れを行う運びとなりました。</li> <li>・採用プロジェクトとして一般職員と管理監督職を交え各種採用イベントへの参画や、令和6年度新卒者の卒業校等での職場説明会、採用内定者に対する事前研修会の開催など、積極的な活動を実施してきました。その結果、令和7年度は新卒者5名、中途採用者1名を採用するに至りました。</li> <li>・サービス推進費の最重度加算要件である人員配置1：1を満たした上で、給付費の人員配置基準1.5：1の確保を行い、職員配置を維持できております。</li> </ul>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通所生活介護について、新施設移行後の種々の混乱を想定し利用定員20名であるところ、11名からスタートすることとし、支援の基盤を構築したうえで利用者数を増やすことが課題です。そのために支援体制及び医療ケア体制を整え、施設全体でフォローし合える体制の構築が急務です。また、清瀬喜望園の短期入所利用についてのPR活動を継続的に行うとともに、短期入所連絡会（清瀬エリア）を介した清瀬療護園やカーサマリモとの事業所間連携をさらに深め、利用スケジュールの安定化を図る必要があります。</li> </ul>

### 3 申出のあった苦情の対応

申立月	苦情の内容	対応と結果
なし		

#### 4 発生した事故の内容（重大事故 17 件）

種別	件数	摘 要
骨折	2 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 月 27 日 居室内にて車椅子から転倒し右股関節転子部を骨折</li> <li>・ 11 月 24 日 右上腕骨骨幹部に外圧が加わったことによる骨折（直接的な原因究明に至らず）</li> </ul>
転落	1 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8 月 3 日 車椅子移乗介助時にベッドから転落し頭部外傷を負い緊急通院。</li> </ul>
服薬関係	7 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6 月 20 日 服薬確認を怠り、薬を飲みこぼし怠薬。</li> <li>・ 6 月 23 日 職員間の情報共有不足により坐薬を重複して挿肛する。</li> <li>・ 7 月 25 日 服薬確認を怠り、薬を飲みこぼし怠薬。</li> <li>・ 9 月 19 日 服薬確認を怠り、薬を飲みこぼし怠薬。</li> <li>・ 11 月 4 日 排便があった事の職員間の情報共有不足により下剤を誤与薬した。</li> <li>・ 2 月 25 日 排便があった事の職員間の情報共有不足により浣腸誤挿入。</li> </ul>
誤飲	1 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 月 25 日 服薬確認を怠り、薬を飲みこぼし怠薬。</li> </ul>
感染症	6 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7 月 7 日 感染症対応として食器をディスポ対応した際、プラスチックスプーン噛んでしまいプラスチック片を誤飲し緊急通院。</li> <li>・ 7 月 コロナクラスター発生（利用者 4 名、職員 1 名 計 5 名）</li> <li>・ 7 月 コロナ重症化により救急搬送</li> <li>・ 7 月 コロナクラスター発生（利用者 8 名 職員 9 名 計 17 名）</li> <li>・ 8 月 コロナウイルス発生</li> <li>・ 9 月 コロナクラスター（利用者 3 名 職員 4 名 計 7 名）</li> <li>・ 9 月 コロナクラスター（利用者 12 名 職員 11 名 計 23 名）</li> </ul>

#### 5 職員体制（令和 7 年 3 月 31 日）

職種	常勤職員	非常勤職員	常勤換算数	法令配置数
管理者(施設長)	1	0	1	1
副施設長	2	0	2	0
サービス管理者	2	0	2	1
医師	1	0	1	1
看護職員	7	8	15	8
機能訓練士	1	1	2	1

(PT・ST)				
レントゲン技師	0	1	1	1
生活支援員	43	11	54	35 以上
栄養士	1	0	1	1
調理員等	5	4	9	6
事務職員	7	2	9	4
洗濯担当員	0	3	3	2
運転担当員	0	0	0	0
合計	70	30	100	61

## 6 研修の実施状況

### 施設内研修

研修名・テーマ	講師	参加職種	開催時期	延人員
法人基礎研修	本部	新入職員 2024	4/11. 4/12	6 名
ユニ・チャーム排泄研修	ユニ・チャーム村上様	生活支援員	4/15. 4/24	20 名
コンプライアンス研修	部門員	全職種	5/20	82 名
障害者支援施設とは	内田副施設長	生活支援員	6/12. 6/13. 6/14	28 名
ハラスメント研修	部門員	全職種	6/24	16 名
反社会性パーソナリティ障害とは	支援課副主任	生活支援員	7/2	9 名
法人内職員交流		全職種	8/15	3 名
法人研修（マネジメント・問題解決）	本部	全職種	8/21	5 名
重症心身障害児（者）研修	看護師	生活支援員	10/11	10 名
氷山モデル	内田副施設長	生活支援員	10/18	6 名
自主生産	利用者	生活支援員	10/25	6 名
内定者研修	本部・管理者	内定者	10/25	3 名
BCP 感染症の予防及びまん延防止のための研修及び訓練 「食中毒ノロウイルス感染症対策・手洗い方法研修」	給食・診療課	全職種	10/29	83 名
ひだまりの里合同研修	ひだまりの里職員	生活支援員	10/30	6 名
虐待防止に資する人材育成	本部	管理職・中間管理職	11/1	13 名
反社会性パーソナルティ障害について	支援課副主任	生活支援員	11/4	5 名
感染症と自然災害における BCP 訓練	施設長	全職種	11/7	79 名
法人本部フォローアップ研修	本部	2024 入職者	11/7	6 名

まりも園事例検討会	まりも園職員	全職種	11/21	3名
リフト研修	小松野課長	生活支援員	12/3～12/26	19名
酸素研修	丸山課長	生活支援員	12/6	5名
移乗研修（重症心身障害児者移乗）	診療課	生活支援員	12/9	15名
法人スキルアップ研修	本部	全職種	12/12	5名
技能実習生出張研修		技能実習生 生活支援員	11/25	4名
接遇研修	人材育成委員会	全職種	11/29. 12/16	74名
リフトを使用した入浴研修	療護園職員	生活支援員	12/18	5名
リフトを使用したトイレ移乗研修	小松野課長	生活支援員	1/8～1/30	24名
自然災害 BCP 訓練・研修	施設長	全職種	1回目 1/10 2回目 1/20	79名 75名
新卒フィードバック研修	管理者	2024 入職者	1/17	6名
虐待防止研修	丸山課長	全職種	1回目 7/31 2回目 2/3	83名 80名
リフトを使用した入浴研修	支援課責任者	生活支援員	2/4～2/28	21名
内定者研修	内田副施設長	2025 内定者	2/27. 2/28	5名
感染拡大防止研修 BCP ガウンテクニック ノロウイルス	診療課	全職種	3/6	72名

## 1) 施設外研修

研修名・テーマ	主催	参加職種	開催時期	延人員
福祉職員キャリアパス対応生涯研修 管理職員研修	東社協	中間管理職	6/27	1名
リフトインストラクター研修	テクノエイド協会	生活支援員	8/1. 8/2	3名
アンガーマネジメント研修	東社協	生活支援員	8/15～10/10	2名
強度行動障害研修	東京都福祉保健財団	生活支援員	9月（3日間）	4名
全国研究大会東北大会	全国身体障害者施設協議会	生活支援員	9/26. 9/27	3名
喀痰吸引オンライン研修	東京都福祉保健財団	生活支援員	10/1	2名
強度行動障害研修	東京都福祉保健財団	生活支援員	10/2	3名
安全運転管理者研修	東京公安委員会	管理者	10/22	1名
メンタルヘルス研修	東社協	生活支援員	11/8. 11/20	2名
新人定着・育成研修	東社協	生活支援員	11/11	2名
中堅職員研修	東社協	生活支援員	11/9～11/23	2名
強度行動障害者研修	東京都福祉保健財団	生活支援員	11/27	2名
メンタルヘルス研修	東社協	生活支援員	12/2	2名

地域移行・地域生活支援について	東京都自立支援協議会	サービス管理責任者	12/9	2名
リフトインストラクター研修	テクノエイド協会	生活支援員	12/11. 12/12	5名
介護記録の書き方	東社協登録派事業	生活支援員	12/11	13名
関東甲信越地区身体障害者施設職員研修大会	関東甲信越地区身体障害者施設協議会	診療課 生活支援員	12/19. 12/20	4名
アングーマネジメント研修	株)日本ビズアップ	生活支援員	1/21	1名
リーダーシップ研修	東社協	中間管理職	1/22	4名
スタートアップ研修	東社協	2024 入職者	1/27	1名
喀痰吸引実地研修	東京都福祉保健財団	生活支援員	2/1～1/28	4名
スタートアップ研修	東社協	生活支援員	2/11. 2/12	1名
リーダーシップ研修	東社協	生活支援員	2/18	1名
喀痰吸引実地研修	東京都福祉保健財団	生活支援員	3/1～3/28	3名
口腔ケア研修	小平保健所	生活支援員	3/13～3/27	28名

## 7 サービス単位ごとの年間利用者延べ総数

区 分	利用者延べ数
施設入所 (定員 60 名)	21,011 人
生活介護 (定員 60 名)	21,011 人
短期入所 (空所利用型)	1 人

## 8 行事の実施状況

実施月日	行事名	参 加 者			
		利用者	職 員	その他	計
4 月 6 日 4 月 29、30 日	・東村山駅さくらの会 4 月 6 日 ・フキの収穫	各 10 名	7 名/2 日		17 名
5 月 1、2、3 日	・菖蒲湯 ・小外出（小金井公園）5 月 3 日	菖蒲湯 57 名 小外出 3 名	菖蒲湯 16 名 小外出 3 名		73 名
7 月 4、10 日、7 月 25 日	・七夕まつり（飾り付け作成） ・納涼祭（コロナクラスターのため、希望園祭りと合同開催に変更）	小外出	小外出		

	・小外出（ガスト）7月25日	1名	1名		2名
9月23日	食欲の秋	58名	11名		69名
10月9日	喜望園祭り	40名	25名		65名
12月18日	クリスマス会	35名	20名		55名
12月20～ 23日	ゆず湯	57名	16名		73名
1月6～12 日	初詣	40名	12名		52名
2月5日	節分	30名	11名		41名
2月26日 ～3月4日	ひな祭り	30名	5名		35名
3月5日	さくらまつり	58名	17名	ご家族 20名	95名